



一般国道464号北千葉道路は、常磐自動車道と東関東自動車道（水戸線）のほぼ中間に位置し、首都圏の東京外かく環状道路から千葉ニュータウンを経て成田国際空港を結ぶ全長約43kmの幹線道路です。北千葉道路が整備されることにより、首都圏北部や県西地域と成田国際空港間のアクセス強化が図られるとともに、沿線地域相互の交流と連携の促進、物流の効率化など地域の活性化に役立ちます。

北千葉道路は現在、印西市若萩から成田市大山までの13.5km区間の事業を進めています。そのうち、千葉県施工区間である印西市若萩から成田市北須賀までの4.2km区間は、平成28年度の部分供用（下り線）を目指し、整備を進めています。平成26年度には、（仮称）印旛沼渡河橋に続き、（仮称）印旛捷水路橋の橋桁がつながり、事業区間の2つの大きな橋の整備が進みました。

地域の期待がはっきりとした形になってきました。

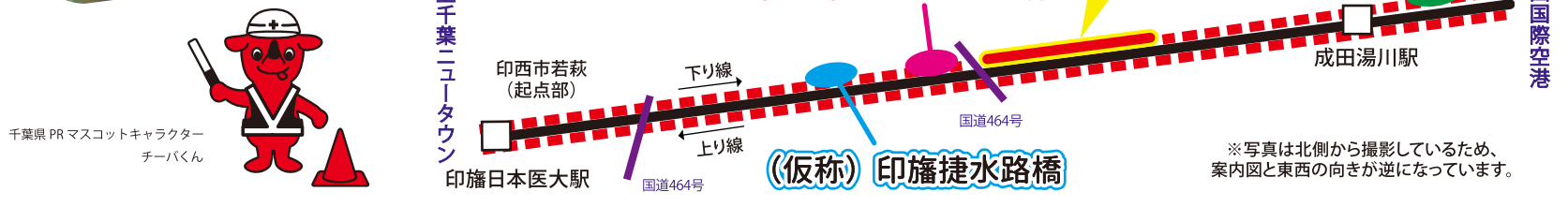


## 【仮称・印旛捷水路橋の締結式】



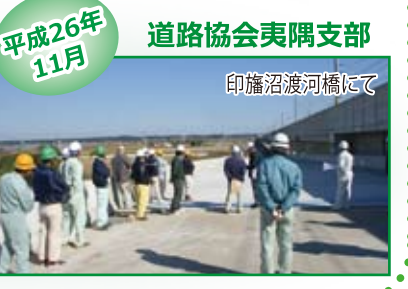
平成26年  
5月

# 地域の期待を形に！北千葉道路づくり



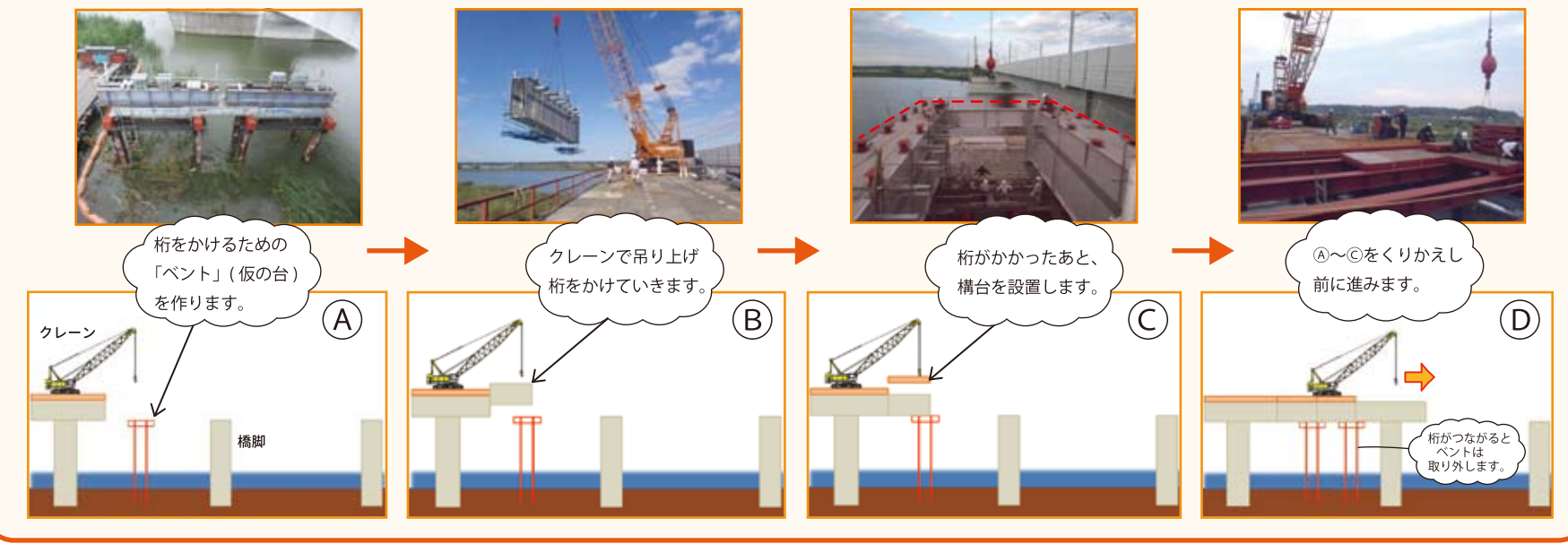
## 整備が進む北千葉道路を間近に！

平成26年度は、地元の小中学生（裏表紙参照）、大学生、道路建設関係者の他、コソボ共和国の研修員が北千葉道路の現場見学に訪れました。



## 水上に橋を架ける！

（仮称）印旛捷水路橋では、河岸からクレーンが届かないような河川中央（水上）で橋を架ける必要があるため、『桁上構台設置+自走式クレーンベント工法』を採用しています。この工法は下の絵のようにクレーンが前進する足場部分（桁+桁上構台）を架けながら、クレーン自体が前進して橋を架けていく工法です。水上での工事では特に有効な工法です。



北千葉道路と成田新高速鉄道（成田スカイアクセス）が北印旛沼を渡ることにより、その周辺にすむ湿地性希少鳥類に影響を与える可能性があることから、鳥類のすみかとして「北須賀工区」と「大竹工区」の2箇所で新たなヨシ原を造成しました。湿地性希少鳥類が生息できるよりよい環境をつくるための検討を行う「印旛沼ヨシ原の順応的管理に関する検討会」では、“育てること”から現在は、“自然に育つこと”のための検討が重ねられています。



## 広がったヨシ原

印旛沼周辺の生物⑦  
オオバン（親子）  
全長39cm。キューキューなど高い声で鳴く。かつての生息は印旛沼が南限地。その後徐々に西へと拡大。  
撮影：浅野俊雄氏

## 子ども会議

地域の子どもたちに印旛沼の自然を学ぶ機会を設けるとともに、地域に愛される道路づくりを行うために、平成20年度から「北千葉道路子ども会議」を開催しています。子ども会議では、工事現場を見学するとともに、印旛沼の自然観察を行っています。平成26年度は印西市立には野小学校の4年生と、成田市立神宮寺小学校の4年生が参加しました。



## 成田スカイアクセス

成田スカイアクセス（成田新高速鉄道）は、平成22年7月の開業以来、成田国際空港へのアクセスや地域を結ぶ主要な交通として重要な役割を担っています。スカイライナーは成田スカイアクセス経由で最高時速160km/hの運転を行い、都心から成田国際空港を最短36分で結んでいます。



成田新高速鉄道・北千葉道路 インフォメーションセンター  
（成田市北須賀1622-2 印旛沼漁業協同組合内会議室） 開館時間 9:00～17:00 木曜日休館  
北千葉道路建設事務所  
※北千葉道路ニュースvol.1～vol.7が閲覧できます。 <http://www.pref.chiba.lg.jp/kitachi-do/>